

令和5年度公共建築月間記念行事

保全技術研究会・記念講演会

やました みつひろ
山下 光博

(一財)建築保全センター 保全技術研究所第一研究部 主任研究員

1 はじめに

令和5年度の保全技術研究会・記念講演会は、11月15日(水)に建築会館ホールにて、約50名の参加者を迎えて開催いたしました。午後のみで開催にしたほか、今年度は当日のWEB配信(約40名)及び日を改めてWEB配信(約45名)も行いました。

まず開会にあたり、当財団奥田修一理事長より、「地方公共団体において、ご担当が抱える課題の解決のヒントになれば幸いである。厳しい財政状況の中で本日の研究会・講演会がお役に立つものと考えている」との挨拶をいたしました。



奥田理事長

2 保全技術研究会〈研究発表〉

保全技術研究会では、研究発表として当財団の中田修より、恒例となっている「公共建築マネジメントの状況調査報告」を行いました。この調査は、「公共施設等総合管理計画や個別施設計画等の見直し」、「更新・統廃合・長寿命化」、「財政負担の軽減・平準化」の取組みに資するよう、アンケートに協力いただいた自治体へのフィードバックを主目的



中田第一研究部長

に行っているもので、今年度で16回目となります。今回は450自治体から回答をいただき、回答率は52%となっています。調査では、「建築・設備の専門職員の充足状況、必要な技術的支援」、「公共施設等総合管理計画の見直し状況」、「施設マネジメントにおける民間活力の導入」を中心に報告を行いました。

3 保全技術研究会(パネルディスカッション)

今回のパネルディスカッションのテーマは「戦略的な公共建築マネジメントの取り組み、実践的な公共施設の再編事例から学ぶこと」といたしました。最近の総合管理計画から個別施設計画の流れの中では、施設の統廃合・再編成に関して、計画の実行にあたって様々な課題に直面して頓挫したり見直しを余儀なくされる状況が見られます。そこで、統廃合・再編成が成功しただけでなく、地域の活性化に結びつくなど効果的な事例を紹介し、研究発表での報告内容を織り交ぜて議論を行いました。

事例発表は、島田市行政経営部資産活用課資産経営担当岩本達夫氏より「施設設備運営事業における成果連動型報酬支払スキームの導入について」として、運営を重視した公共施設整備の試みについて紹



岩本氏

介していただきました。複合的な交流施設、保有施設の見直し、適正配置、公民連携、施設評価、成果指標、成果発注、ソーシャルキャピタルの醸成・向上等、ヒントとなるキーワードの提示がありました。続いて、佐倉市資産経営部資産経営課FM推進班班長橋本直子氏より「公共施設の複合化等のプロセスと効果について」として、事例を発表していただきました。公共施設の再配置計画、複合化、集中化、機能分散、住民との合意形成、ワークショップ等、ヒントとなるキーワードの提示がありました。



橋本氏

その後、事例発表を行った岩本氏、橋本氏に加え、自治体等FM連絡会議大阪府地域会代表幹事小川公子氏、山本康友東京都立大学客員教授がパネリストとして登壇し、当財団参事林理氏のコーディネートにより、ディスカッションを行いました。

はじめに、小川公子氏より大阪府内の各市における公共施設の再編事例をご紹介いただきました。



小川氏

ディスカッションは、施設の統合・再編成にあたっての課題として、以下①～③の三点より展開されました。①市役所における関係部署の連携、②住民との合意形成、③公民連携における民間活力の導入にあたってのポイントです。

これらの課題に対し、やわらかな連携体制・仕組み作りを意識すること、住民との合意形成にあたっては、望む答えがもらえるかどうかということもあるが、まずはやってみること、学識経験者

や他の市の事例を参考にすること、公民連携、民間活力の導入にあたっては、官から民へと意識を転換すること等をポイントとして挙げました。そして、自治体職員の気構えとして、前向きに一つずつ、できることから進めていくということでもめられました。

4 記念講演会

「都市木造の意義と現在」と題して、東京大学生産技術研究所腰原幹雄教授にご講演をいただきました。

これまで、木造建築は地産地消を合言葉に地方を中心に活用されてきましたが、建築基準法における木造



腰原氏

建築の制限により都市での建築は困難でした。戦後植林した森林資源が建築用材として活用期を迎えるとともに地球環境問題からも森林資源の有効活用が求められ、木造建築の新たな需要として都市型の木造建築である「都市木造」が注目されるようになってきています。2000年代の技術開発、法整備、2010年代の試行、発展、そして2020年代の普及期を迎えた「都市木造」の意義と、現在の到達点と将来像について、木造の魅力が伝わり、もっと普及につながればという思いとともに有意義なご講演をいただきました。

最後に、お忙しい中でご講演いただいた講師の方々、ご来場、またご視聴していただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。